

埼玉県総合リハビリテーションセンターだより



＜今号の内容＞

- パーキンソン病リハビリ体験会を開催1
- セラピー犬とのふれあい活動2
- 海外医師視察団が来所3
- 食欲の秋～レシピ紹介～4



発行：埼玉県総合リハビリテーションセンター
〒362-8567 埼玉県上尾市西貝塚 148-1
TEL 048-781-2222

パーキンソン病リハビリ体験会を開催しました

7月6日（日）に「パーキンソン病患者リハビリ体験会」を開催しました。患者さん及びご家族62名の方に参加をいただきました。

体験会は約2時間にわたり、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリを体験いただきました。VR（仮想現実）を用いた器具や、参加者の皆さんで大きな声で歌う発声練習、音楽に合わせて踊るリハビリなど、楽しみながら身体を動かせる内容をご紹介させていただきました。

参加された方からは「楽しく体験ができた」「良い機会になった」といったお声をいただきました。



パーキンソン病に対しては、身体を動かすリハビリ・運動療法がとても大切です。特に、1か月程度集中的にリハビリを行うことで、身体機能の維持・向上につながることが分かっています。当センターでも1日に計2時間程度のリハビリを、1か月程度の入院により集中的に行うことをお勧めしています。

今後も、こうした患者さん向けの体験会や、地域の訪問看護ステーションなどのスタッフに向けた研修会などを通じて、リハビリの大切さを知っていただく取組を行っていく予定です。



当センターでは「神経難病センター」を設置し、医師、療法士、看護師、医療相談員、薬剤師などの多職種が連携して、パーキンソン病を中心とした神経難病の患者さんへ向けた医療を提供しています。

今回ご紹介したリハビリテーションに加え、薬剤の調整や、デバイス補助療法（脳深部刺激療法など）にも取り組んでおり、総合的にご相談に乗ることができる体制が整っております。ご質問やお困りごとがありましたら、お気軽にご連絡ください。



お問い合わせ先：医療相談科（048-781-2222）

「セラピー犬とのふれあい活動」が行われました



人の気持ちに寄り添い心を癒してくれるセラピー犬。そんわワンちゃんたちと当センターの入院患者さんら（病院入院患者&障害者支援施設利用者）との「ふれあい活動」が行われました。埼玉県動物指導センター登録のボランティア団体さんの御協力のもと、5月28日（水）には4頭のセラピー犬が、6月25日（水）には11頭ものセラピー犬が当センターにやって来ました。

この日を楽しみに待っていた患者さんらも多く、当日は皆さん胸がわくわく。ワンちゃんたちが現れると、早速ワンちゃんの頭や喉元や背中をやさしく撫でたり、膝の上に乗せたり、思い思いに触れ合っていました。中には、まだ身体のリハビリ中のため、十分思うように動かせない腕や指を一生懸命前に伸ばしてワンちゃんに触れようとする患者さんもあり、ワンちゃん達もそんな思いに応えるようにじっと待っている場面も見受けられました。また、得意の芸を披露して患者さんらから万雷の拍手を受けたワンちゃんもいました。

会場は、笑顔とやさしさにあふれ、とても幸福なひと時を過ごすことができました。今後とも、このようなふれあい活動に継続的に取り組んでいきたいと思ひます。ボランティア団体の皆さん、またワンちゃんたち、どうもありがとう。



<当日のふれあい活動の様子>



海外の医師らが当センターを視察しました

6月26日から28日にかけての3日間、ベトナム・ダナン市にある整形外科・リハビリテーション病院の医師らが当センターの視察に来日されました。

ベトナムで行っているのは整形外科系のリハビリが主とのことで、当センターで力を入れている若年の脳卒中患者の回復期リハビリや、パーキンソン病などの神経難病のリハビリを中心に説明しました。

また、実際にリハビリを行う現場もご覧いただき、当センターで使用するリハビリテーション機器や、ベトナムではまだ使用されていない薬剤についてなど、大変熱心に質問をいただきました。

最終日に皆さんからは「院内がきれいだった」「患者さんへの丁寧な対応を見習いたい」といった、院内の環境や接遇についてのお褒めの言葉もいただきました。さらに「今後も総合リハビリテーションセンターを訪問し、学ぶ機会を作っていけたら」というお言葉もいただきました。



8月28日にはJICAの事業によるウズベキスタン、キルギスなど中央アジア諸国からの視察団の受入れを行いました。

脳卒中に対するリハビリテーションをテーマとした視察の一環で、当センターでは「若年者リハビリセンター」で取り組む就労世代の回復期リハビリテーションなどをご紹介します。

中央アジアでは理学療法士などのリハビリを専門とする職種自体がないとのことで、当センターの理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がマンツーマンで行うリハビリの様子も見学いただきました。

視察の中では回復期における多職種での支援や、パーキンソン病のリハビリや薬剤についてなど、幅広く多くのご質問をいただきました。

これからも国内外から参考にしていただけるよう、良質な医療の提供を行っていくとともに、視察の受入れなど情報交換できる機会を積極的に作っていきたいと考えています。

各国の皆さん、ありがとうございました。



食欲の秋 ～レシピ紹介～



当センターの定番メニュー
「鮭のバターソース」

センターでお出ししている料理をフライパンで簡単に作れるようアレンジしたレシピです。
きのこ・バターの風味が食欲をそそる一品です。



【1人分】 エネルギー／216kcal たんぱく質／14.6g 脂質／14.4g 食塩相当量／0.7g

【材料（1人分）】

鮭	1切
コショウ	少々
サラダ油	小さじ1/2
えのきたけ	20g
しめじ	20g
ねぎ	10g
バター	小さじ1
しょうゆ	小さじ2/3

【作り方】

- ① えのきたけ、しめじは小さくカット、ねぎはぶつ切りにする。
- ② 鮭にコショウをふる。
- ③ フライパンにバターを入れ、溶けてきたら①を入れ炒め、しんなりしたらしょうゆを入れなじませる。
- ④ ③を器に移し、炒め終わったフライパンに油をしき、②を焼く。
- ⑤ 器に移した③に④を盛り付ける。



【減塩ポイント】 鮭にはコショウだけふります。



（酒をふって5分おきキッチンペーパーで水気をふきとると魚のにおいがとれます）。

しょうゆを減塩しょうゆに変更すると食塩相当量は半分になります。

味が足りない時はレモンを絞るとさっぱりと召し上がれます。